

ヒメビウンカとイネ縞葉枯病の総合防除

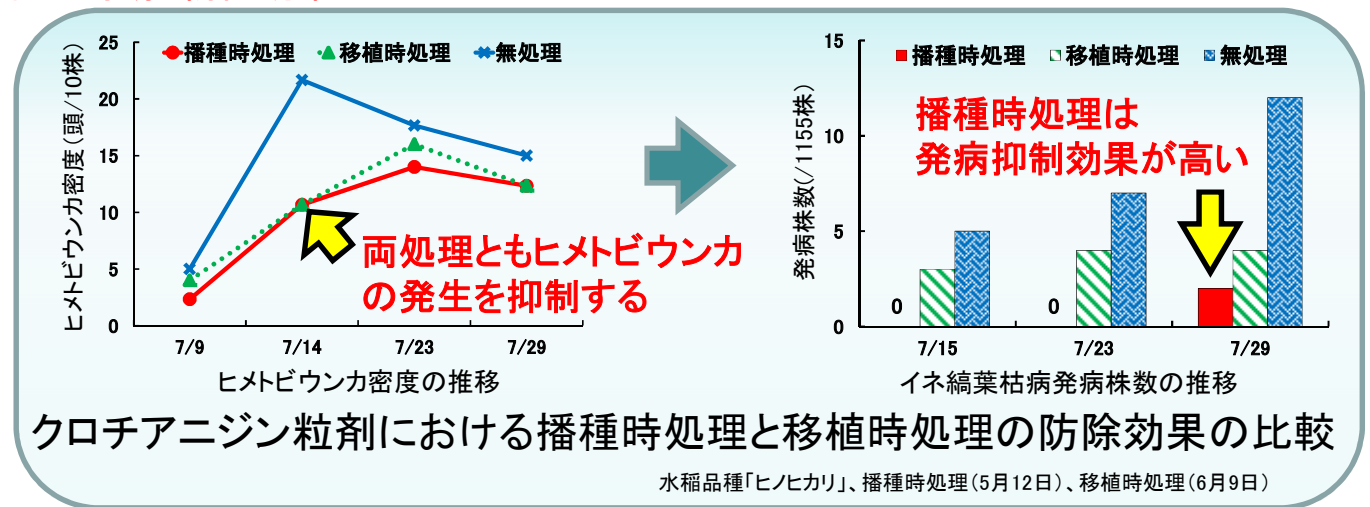
【背景・目的・成果】

兵庫県では2008年以降、イネ縞葉枯病が多発傾向にあります。小麦で増殖したヒメビウンカが移植直後の水田へ飛来し、本病を感染させることが多発の原因の一つであるため、まずは、移植直後の感染を防ぐことが重要です。

そこで、移植直後に飛来するヒメビウンカに用いられる育苗箱施用殺虫剤について、施用時期と防除効果の関係を調べ、播種時処理がイネ縞葉枯病の感染予防に効果的であることを明らかにしました。

さらに、越冬中のヒメビウンカに対して、冬期の耕起の高い防除効果を明らかにしました。

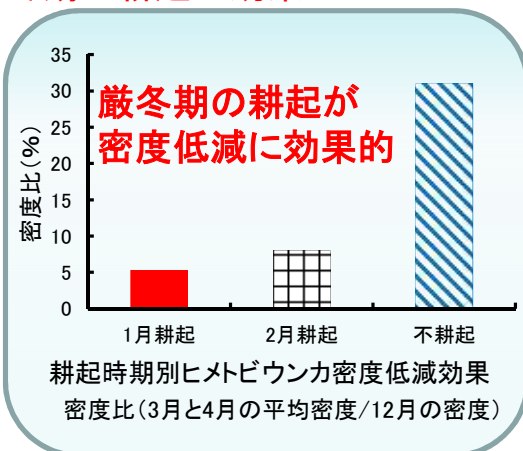
施用時期と防除効果



播種時処理は

移植前から有効成分がイネ体内に行き渡っており、移植直後からイネ縞葉枯病媒介虫のヒメビウンカに速やかに効果を示すため、初期感染の予防に有効です。

冬期の耕起の効果



冬期の耕起は

ヒメビウンカの餌となるひこばえ(収穫後の再生稲)や雑草を除去し、生息環境を攪乱することができるため、越冬世代虫の密度低減に効果的です。

ひこばえや雑草は、ヒメビウンカの越冬場所です



ひこばえのイネ縞葉枯病発病株(秋期)



不耕起により雑草が繁茂したほ場(春期)

【技術の活用】

収穫後、速やかに耕起した場合も密度低減効果が期待できます。なお、耕起は刈り株の原形が残らないように、丁寧に行う必要があります。